

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
 (鉄電)二九二五(六)公衆(〇四七)二二(七)七二〇七

『61』の一方強行うち砕いた 渾身の2.15スト

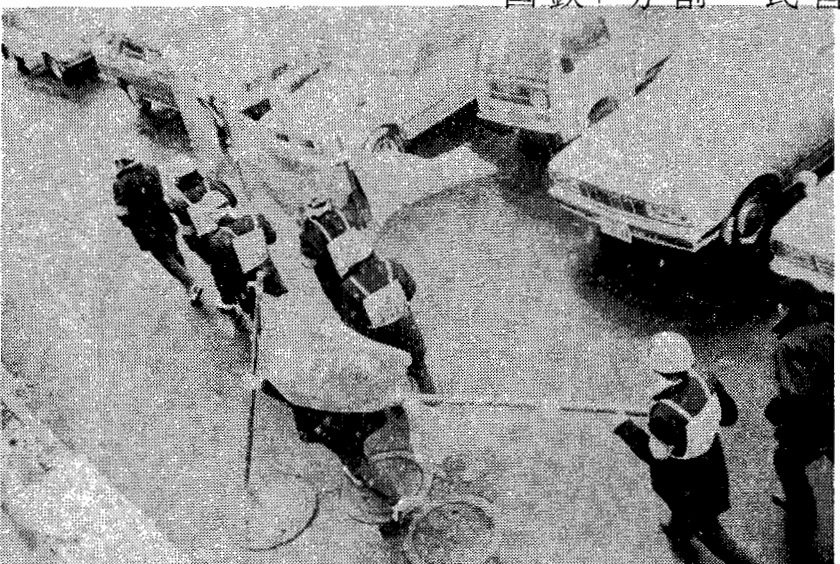
支部二〇三名は不退転の決意で勝ち進むぞ！

成田支部一〇三名は、二月四日以降の線見阻止闘争を、白腕・公安をもとせせず、かかんに闘い、その怒りを二・一五ストへと結実させた。とりわけ、スト前日の線見阻止行動は平日を倍する八十名の組合員の結集の下で闘われ、その圧倒的熱気と盛り上がりのもとで、一人の脱落者もなく二・一五ストを貫徹しぬき、「61・3ダイ改」―業務移管阻止の巨大な展望を切り拓いたのである。

一人の脱落者もなく、
 全員ろう城でストに突入

十四日、十七時三十分より庁舎前にてスト突入集会を開催、全員ろう城体制に入った。

こうした中で、こともあろうに当局が我孫子線の終列車を三両編成（通常十両）で走らせようとしていることが発覚、「何故そんな列車を走らすのか」「運転保安無視だ」「乗務員を殺すつもりか」とろう城中の組合員が区長につめより、怒りの抗議をあげせかけ、当局の理不尽性



寒風粉雪をついて―成田青行隊

我孫子線仕業の東京へのとり上げ―成田運転区際止策動への怒りを爆発させ、印を牽引

を徹底的にあげき出すなど、断固とした抗議行動の中でストライキに突入した。

大量の公安・白腕導入―
 不当退去命令はねのけて貫徹

いよいよ十五日、スト突入一番列車の時間が来た。担当乗務員は毅然たる態度で「組合の指令・指示に従います」と言明ストへ突入した。他区泊の乗務員の収用班も次々と幕張・我孫子・北鹿島へとんだ。

八時、ろう城した全組合員が続々と組合事務所前に集合、直ちに勤務者が庁舎に入ろうとすると、庁舎入口で、公安・白腕等がビケを張り、個別点呼を行おうとするではないか。

勤務者は当然にも怒りの抗議を展開、公安・白腕を引き上げさせたのである。その後も再三にわたってくりかえされる不当な退去命令に抗し、断固闘争を貫徹した。

「スト破りを拒否し、共に闘おう」

―国労組合員に抗議と呼びかけ―

青行隊は、国労組合員による快速列車がホームに到着するや、国労組合員に対し、「動労千葉がストで闘っているのだ。なぜ国労は聞えないのだ」「スト破りをやったら自からは二度とストはできなくなる。共に闘おう」と、抗議と、共闘を呼びかける訴えを行った。

庁舎の内外にわたる闘いを終日貫徹した組合員の顔は、自信と確信に満ちあふ

拠点 成田 2波



いざ勝利へ、森内支部長の首領で「団結カハロー」

われわれは、中曾根・杉浦の第二波つぶしを打ち破り、断固第二波ストを貫徹した。当局の「61・3」一方強行を次々と打ち破っている。闘えば必ず展望を切り拓くことができるのだ。

成田支部は、全ゆるる反動をはね返し、確信も固く、さらに闘いに決起する。

かんばれ動労千葉。届く。全労から

―東つく出線きの村から―

共感激励の聲

動労千葉に結集する組合員、おどさん、東北の百は、今燃え出す春の希望を、若者に我身に感じ出している。八五年十一月八日の動労組、血のじいちゃん、夫は、希望の旗を掲げ、指し示している。五七中流の幻想の中には、閉ざされた、おどさん、村も、凍てつき、凍結した、反動、逆も見えぬ。

貴労組のたたかい、全を私拭してやる。我々、全日動労連東連合会青年部は、労働連帯の絆にかけ、貴労組のたたかいを断固、支持し、連帯する。

国鉄分割民営化粉砕！
 戦後労働運動の中核、国鉄労働運動をつなぐ！
 全労連、産業界、国鉄会への道を許すな！
 既成階級の屈辱を乗り越え、戦後国家化、軍大化、改憲への道を阻止せよ！
 中曾根、矢張り、不当退去攻撃粉砕！
 硬張れ動労千葉、貴労組の背後には、万全の味方、名もなき人民の隊伍がひかえている。

全日本動労組合連合会青年部一同
 一九八六年二月